

低周波領域の振動を減衰させるコンクリート床の作り方

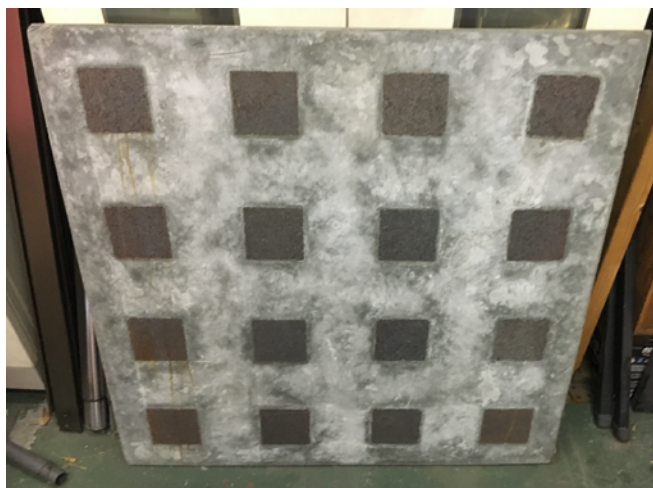
【特徴】

- ・コンクリートにRASKを添加するだけで、コンクリートの振動減衰性能を向上
- ・RASKの添加量を増やすことで低い周波数にも対応可能
- ・コンクリートの施工方法は変わりません

【作り方(31.5Hzを減衰させる例)】

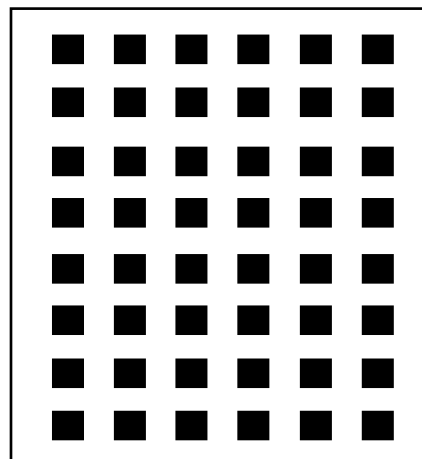
- ・施工する床に対して900×1200分の鋳鉄RASKを用意
(150mm角のRASK48枚 又は 100mm角のRASK108枚分 RASKの厚みは10mm)
 - ・下記、配置イメージの様に、所定の数量を、施工する床に対して均一になる様にRASKを配置し、コンクリートを流し込みます。
- ※デッキプレート上で施工する場合は接着剤代わりにRASKにコンクリートを塗り、デッキプレートに貼り付けた後、コンクリートを通常施工して下さい。
- ・通常施工の乾燥をし硬化すれば、完成です。

社内実験サンプル写真



配置イメージ

■:150mm角RASK



施工範囲2.3m×3m 約7m²場合のRASK配置例

ご相談については無料、
設計・測定・対策コンサルティング等、別途行っております。

お問い合わせ先 有限会社スイサク



大阪府堺市美原区小寺21-1 担当: 權谷(かいたに)

TEL: 072-363-3056 email: info@suisaku.co.jp

低周波領域の振動を減衰させるコンクリート床の作り方

【性能について】

900×1200分のRASK単体、理想状態で、31.5Hzが-18dBになるRASKの量の設計です。コンクリートの厚みや、設置環境や構造、振動の状態等によって、実際の減衰性能は変動します。

施工面積に対して極端にRASKの使用量が少ない（設置間隔が大きくなる）場合、床面に対しての影響力が落ちる為、31.5Hzの減衰量は下がる傾向です。

使用量目安として、配置イメージの様に

コンクリート床、約7m²に対して900×1200のRASK 面積比で約15%以上を目安とします。

【RASK(ラスク)について】

鑄鉄チップを特殊な方法で焼結し、振動減衰構造を持たせた板材です。

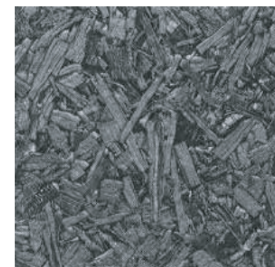
RASK構成素材： 100%鑄鉄

・錆びについて

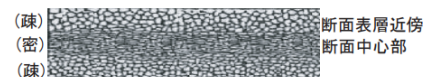
コンクリートがアルカリ性のため錆びず、コンクリートが割れ、RASKがむき出しにならない限り、問題はありません。

・RASKの硬さについて

RASKはコンクリートと同じ硬さなので、コンクリートになじみが良く、割れ等の心配もありません。



鑄鉄ラスク



RASKの詳しいデータ等は弊社ホームページの資料ダウンロードのページをご参照下さい。
(<http://www.rask.co.jp/downsite.html>)

ご相談については無料、

設計・測定・対策コンサルティング等、別途行っております。

お問い合わせ先 有限会社スイサク



大阪府堺市美原区小寺21-1 担当：樫谷(かいたに)

TEL:072-363-3056 email: info@suisaku.co.jp